

九州医療科学大学「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」
自己点検・自己評価 2025

本プログラム科目「データサイエンス I」は、1 年生を対象とした大学共通基礎科目として開講しており、数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識とリテラシーの習得を目的としている。現在は選択科目として位置づけられているが、全学的な基盤教育の一環として重要な役割を担っている。本授業では、関連する知識に触れ、必要に応じて自ら調べ、活用へとつなげることができる基礎的素養の形成に重点を置いている。

令和 7 年度は、1 年生 221 名中 117 名が履修（履修率 52.9%）であった。履修率は前年度（45.2%）から向上しており、履修促進に関する取組の成果が確認された。また、単位取得者は 117 名中 115 名であり、単位取得率は 98.3%と高い水準を維持している。これは、基礎的内容の定着を重視した授業設計および継続的な学習支援の結果と考えられる。

本科目では、オンライン教材や学習支援システム（Google Classroom 等）を活用し、出欠管理、課題提出、確認テスト等を一体的に運用している。また、オンデマンド教材と対面授業を組み合わせた授業形態を採用し、学生が自らの理解度に応じて学習を進められる環境を整備している。対面授業では、Excel などを用いたデータ処理を取り入れ、データの整理や前処理を含む実践的な学習機会を提供している。これにより、単なる知識の習得にとどまらず、データ活用の基本的な考え方を体験的に理解させることを目指している。

今後は、履修率のさらなる向上に向けた取組を継続するとともに、生成 AI を含む最新の技術動向を踏まえた教育内容の見直しを行い、より効果的かつ実践的な教育プログラムの構築を進めていく。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

教育改革部会

（責任者名） 三宮基裕

（役職名） 教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラム科目「データサイエンスI」は1年生を対象として開講されており、令和7年度は221名中117名が履修（履修率52.9%）した。履修率は前年度（45.2%）および前々年度（27.7%）と比較して継続的に向上しており、履修促進に関する取組の成果が段階的に現れていると考えられる。 また、単位取得者は117名中115名であり、単位取得率は98.3%と高い水準を維持している。前年度（97%）、前々年度（92.2%）と比較しても改善傾向が見られ、学習支援体制の整備や授業設計の工夫が、学修成果の定着に寄与していると考えられる。
学修成果	本科目では、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的知識の理解に加え、データの整理・前処理を含む実践的なデータ活用の基礎力の習得を目標としている。授業では、オンライン教材と対面演習を組み合わせることで、知識の習得と実践的理解の両立を図っている。特に対面授業においては、Excel等を用いたデータ処理演習を通じて、データの可視化や整理、簡易な分析手法を体験的に学ぶ機会を提供している。 アンケート結果においては、「データサイエンス分野の知識が得られたか」について86.5%、「興味が得られたか」について85.4%が肯定的な回答を示しており、基礎的知識の習得および関心の喚起の両面において一定の成果が得られていると考えられる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	アンケートにおいては、「知識が得られたか」（86.5%）、「興味が得られたか」（85.4%）に加え、「将来に関係すると感じたか」（89.9%）といった項目においても高い肯定的回答が得られており、授業内容に対する理解度は概ね良好であると考えられる。また、各設問の分布を見ると、「非常に～」と「～」の回答が大部分を占めており、否定的回答はごく少数にとどまっている。これは、基礎的内容を段階的に提示した授業構成および演習を重視した授業方法が、理解の定着に寄与していることを示唆するものである。 過年度においても同様の項目で90%前後の肯定的回答が得られており、本年度も概ね同水準を維持していることから、継続的に安定した教育効果が得られていると考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業満足度については、「とても満足した」（46.1%）および「満足した」（44.9%）を合わせて91.0%と高い水準であり、本科目に対する評価は概ね良好である。また、「より発展的な科目が開講された場合に受講したいか」については、「強く思う」（18.0%）、「思う」（29.2%）に加え、「少し思う」（41.6%）を含めると88.8%が肯定的な回答であり、多くの学生が学習の継続に一定の意欲を示している。 これらの結果から、本科目は導入科目として一定の満足度と有用性を有しており、後輩等他の学生への推奨度も高い水準にあると考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修率は、前々年度27.7%、前年度45.2%、本年度52.9%と段階的に向上しており、履修促進に関する取組が継続的な効果を上げていると考えられる。履修動機に関するアンケート結果では、「単位取得のため」や「履修を勧められたため」といった外的要因に加え、「将来役立つと考えたため」とする回答も多く見られ、科目の有用性が一定程度認識されていることが示唆される。 今後は、令和8年度以降の必修化も見据えつつ、履修の意義や他科目との関連性をより明確に示すことで、主体的な履修動機の向上を図ることが重要である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムは令和5年に開設し、履修者は1年生のみであるため、修了者の進路、活動状況、企業等の評価を得るまでに至っていない。履修者が卒業を開始する令和8年度以降分析ができるよう、本学就職キャリアサポートセンターと連携して準備を進めている。 しかしながら、アンケート結果において「自身の将来に関係すると感じたか」に対して89.9%が肯定的に回答していることから、本科目が学生の将来的な進路意識の形成に一定の影響を与えている可能性が示唆される。 近年、産業界においてもデータ活用能力の重要性が高まっている。本科目では、データの整理・可視化・基本的な分析といった実務に近いプロセスを取り入れており、基礎的なデータリテラシー教育として一定の妥当性を有していると考えられる。 アンケート結果においても、「知識が得られたか」（86.5%）、「興味を得られたか」（85.4%）といった項目で高い評価が得られており、教育内容と学生の受容との間に一定の整合性があると考えられる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	アンケート結果より、「興味を得られたか」（85.4%）および「将来に関係すると感じたか」（89.9%）において高い肯定的回答が得られており、学習内容に対する関心の喚起および学ぶ意義の理解に一定の効果があつたと考えられる。 また、自由記述では、Excelの操作を通じて理解が深まったとの意見や、実際に入力・操作を行うことが学習の助けとなったとの記述が見られたことから、体験的な学習が理解の促進に寄与していることが示唆される。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	オンライン教材の説明については、「非常にわかりやすかった」（30.3%）、「わかりやすかった」（43.8%）を合わせて74.1%が肯定的な評価を示しており、概ね良好な評価が得られている。一方で、「どちらでもない」（22.5%）や「わかりにくかった」（3.4%）といった回答も見られることから、教材の構成や説明方法についてはさらなる改善の余地があると考えられる。 今後は、生成AI等の新たな技術動向も踏まえつつ、教材の改善および授業方法の見直しを継続的に行い、より分かりやすく実践的な教育の実現を目指す。

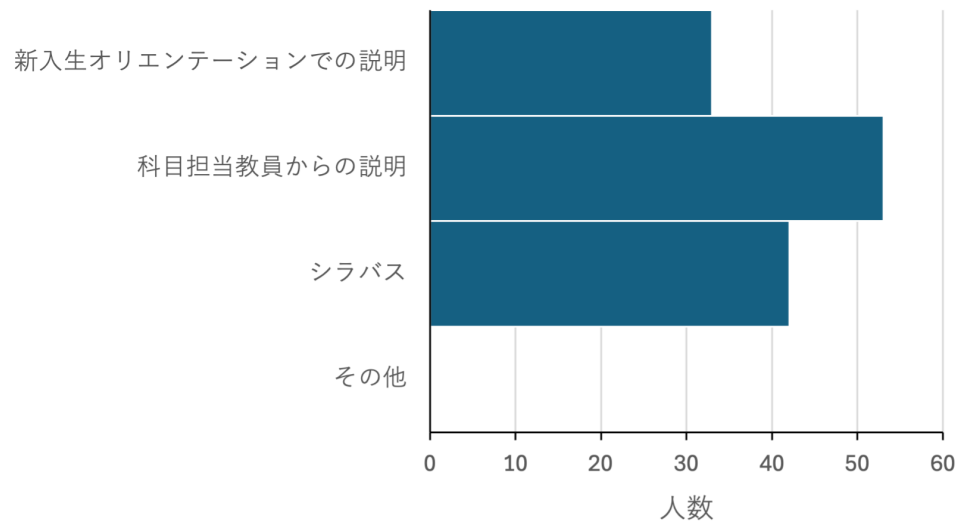
受講後のアンケート

アンケートは、受講者が全講義受講後に回答。Q1, Q2, Q9以外は4段階(肯定的-否定的)の評価で回答。(アンケート回答数:89)
質問内容は以下の通り

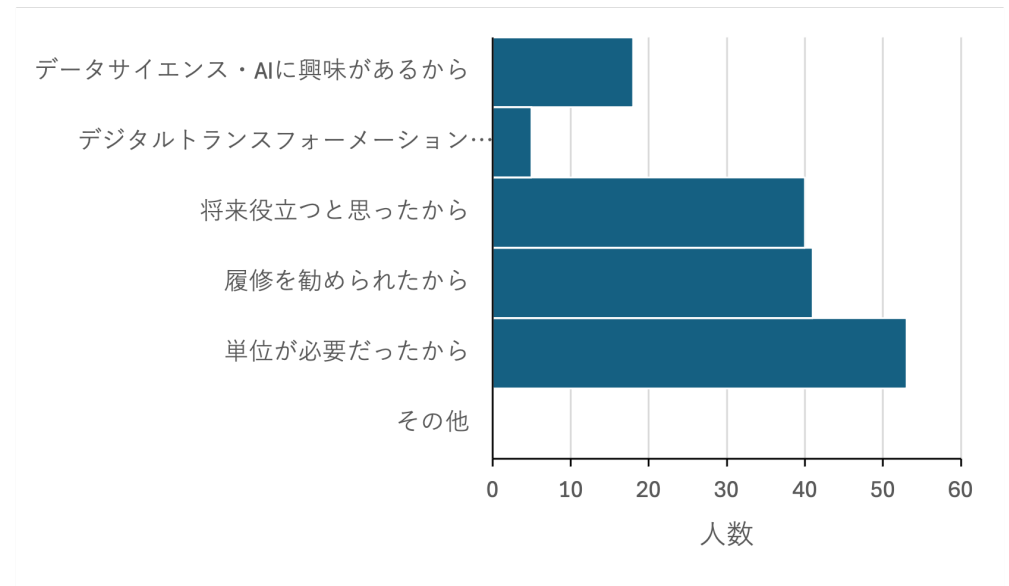
- Q1.本科目を知った情報源は何ですか。
- Q2.本科目を受講した動機は何ですか。
- Q3.本科目を受講して、データサイエンスという分野について興味を得られましたか。
- Q4.本科目を受講して、データサイエンスという分野の知識を得られましたか。
- Q5.本科目を受講して、データサイエンスという分野が自身の将来(進学、就職や働き方等)に関係すると感じましたか。
- Q6.本科目を受講して、データサイエンスという分野は難しいと感じましたか。
- Q7.本科目を受講して、データサイエンスという分野の知識や技術を自ら進んでより深く学びたいと思いましたか。
- Q8.本科目受講後の満足度を回答ください。
- Q9.本科目を受講して身についたと思う知識、能力を選んでください。
- Q10.本科目のより発展的な科目が新たに開講された場合、受講したいと思いますか。
- Q11.オンライン学習教材の説明はわかりやすかったですか。

受講後のアンケート結果

- Q1.本科目を知った情報源は何ですか。

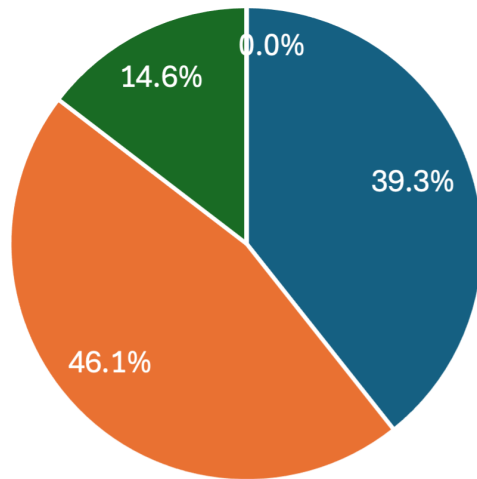


- Q2.本科目を受講した動機は何ですか。

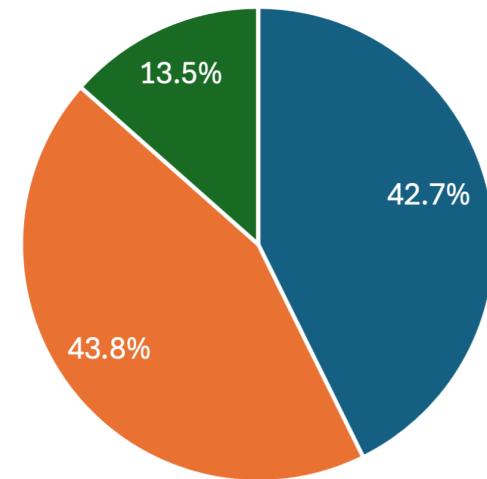


受講後のアンケート結果

- Q3.本科目を受講して、データサイエンスという分野について興味を得られましたか。
- Q4.本科目を受講して、データサイエンスという分野の知識を得られましたか。



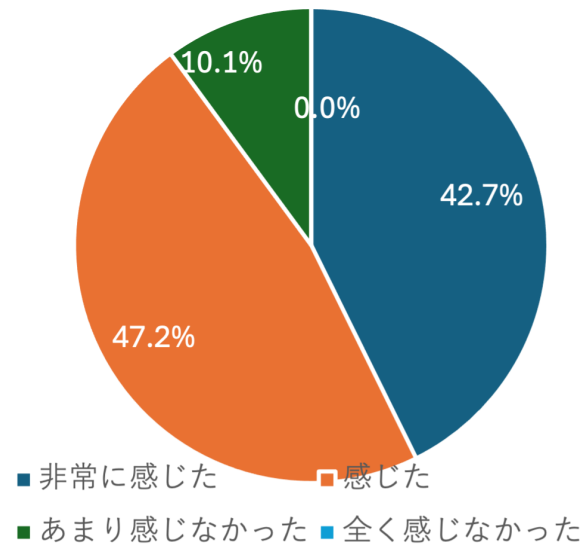
■ 非常に得られた ■ 得られた ■ 少し得られた ■ 得られなかった



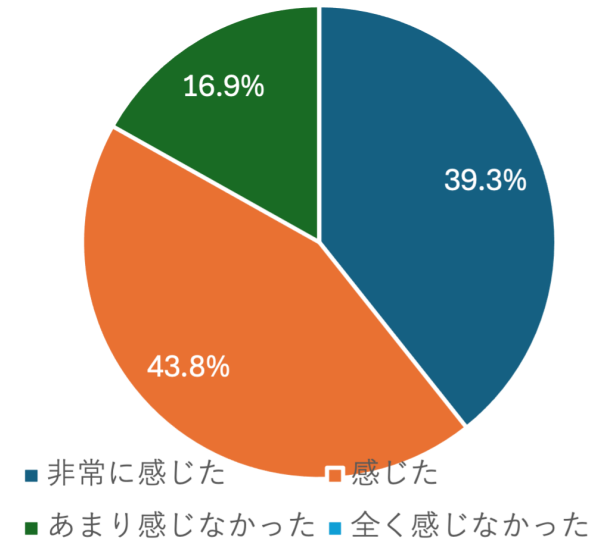
■ 非常に得られた ■ 得られた ■ 少し得られた ■ 得られなかった

受講後のアンケート結果

- Q5.本科目を受講して、データサイエンスという分野が自身の将来(進学、就職や働き方など)に関係すると感じましたか。

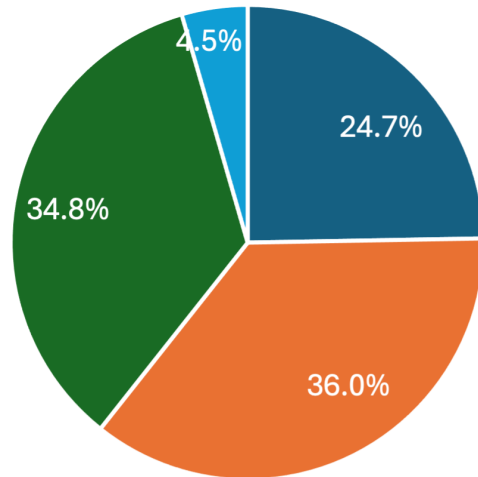


- Q6.本科目を受講して、データサイエンスという分野は難しいと感じましたか。

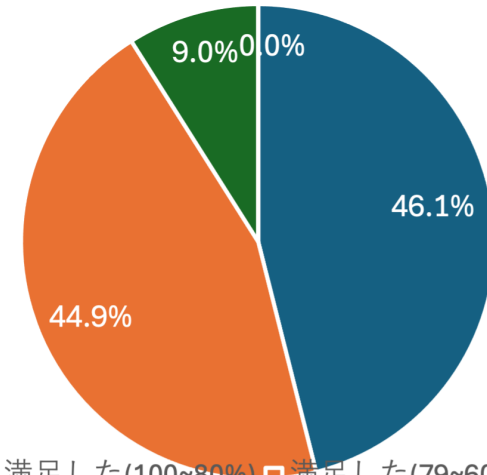


受講後のアンケート結果

- Q7.本科目を受講して、データサイエンスという分野の知識や技術を自ら進んでより深く学びたいと思いましたか。
- Q8.本科目受講後の満足度を回答ください。



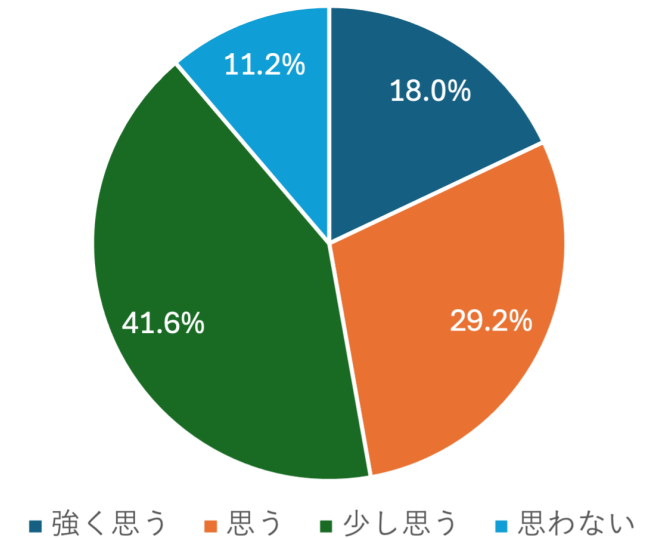
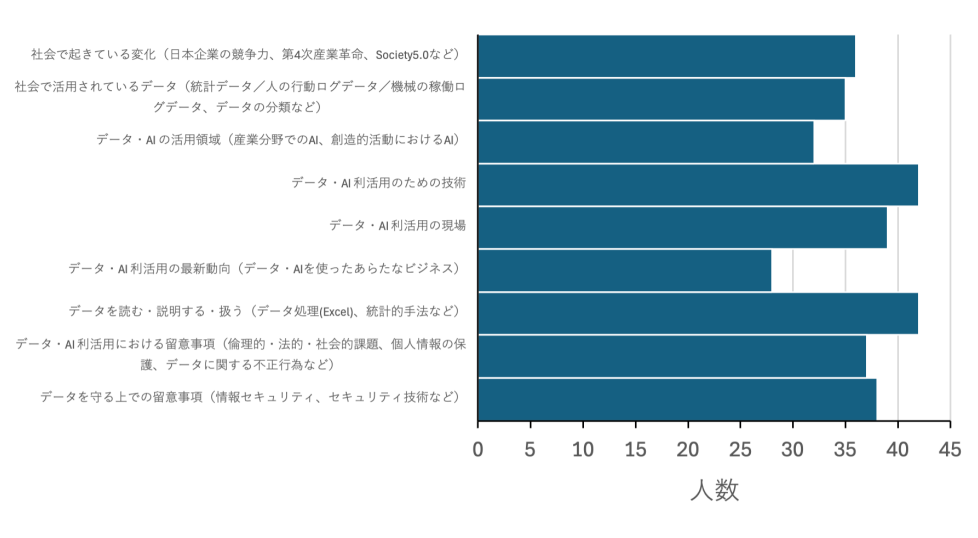
■ 強く思った ■ 思った ■ 少しは思った ■ 思わなかった



■ とても満足した(100~80%) ■ 満足した(79~60%)
■ 少しは満足した(59~40%) ■ 満足しなかった(39%~)

受講後のアンケート結果

- Q9.本科目を受講して身についたと思う知識、能力を選んでください。
- Q10.本科目のより発展的な科目が新たに開講された場合、受講したいと思いますか。



受講後のアンケート結果

- Q11.オンライン学習教材の説明はわかりやすかったですか。

